

2008 年度

科目名 地域文化論（総合講座）	対象学科・学年 教育教福3回生	担当者 犬木 努
授業テーマ 古墳時代における「中心」と「周縁」の関係について考える。		
授業の概要と目標 日本列島では、3世紀後半から7世紀までの350年間に、約15万基もの古墳が造営された。古墳時代とはまさしく、列島全土が巨大な「墓」作りに狂奔した、世界史上、類をみない特異な時代であるといえる。古墳とは死んだ首長を埋葬するための「墓」であるばかりでなく、政治的・経済的・宗教的・文化的な結節点であり、「古墳」を理解することなく「古墳時代」を理解することはできないと考えている。そこで、本講義ではとくに近畿地方の古墳をとりあげながら、古墳の副葬品からみた「中心」と「周縁」の関係について考えたい。		
評価方法 出席状況およびレポートの内容に基づいて評価する。		
テキスト 使用しない。授業時に適宜資料を配布する。	著者	出版社
参考書 授業中に適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. ガイダンス：講義の進め方——「地域」とは？、「地域文化」とは？ 2. 「古墳時代」という時代 3. 東アジアにおける「中心」と「周縁」——列島をとりまく時代状況 4. 埋葬施設からみた「中心」と「周縁」——斉一性と地域色 5. 副葬品からみた「中心」と「周縁」——配布論とその周辺 6. 埴輪からみた「中心」と「周縁」——技術移転と変容 7. 中央／地方という視点からみた古墳時代 ※各項目について数回にわたって行う場合がある。また、概略このような順番・内容ですすめるが、一部変更する場合がある。		